

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	英文紹介③ 苗物の栽培について。
授業計画 【第13回】	英文紹介④ 切り花の鮮度保持について。
授業計画 【第14回】	英文紹介⑤ 鉢物の鮮度保持について。
授業計画 【第15回】	まとめ
授業の到達目標	花卉が人類と深いかかわりがあることを説き、なぜヒトに花卉が必要なのかを説明できるようになる。【知識・理解の獲得】さらに、花卉の開花メカニズムを知ることにより、環境をコントロールして開花を人為的に支配できる能力を身に付ける。【知識・理解の獲得】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	ゼミでの発表のための要旨を作成し、わからない箇所を自分で調べておく。予習に2時間。
授業時間外の学習 【復習】	授業を聞いてもわからなかった箇所を自分で調べる復習に2時間。
課題に対する フィードバック	前回の発表での説明不足であったこと、理解できなかったことは、次回以降の授業で解説する。
評価方法・基準	論文の紹介、論文の理解度から評価する。
テキスト	なし
参考書	なし

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	造園計画の知識と技術の応用-6 (研究調査の精査方法について学ぶ)
授業計画 【第13回】	研究論文の発表方法-1 (ディスカッション・プレゼンテーション方法について学ぶ)
授業計画 【第14回】	研究論文の発表手法-2 (研究発表の方法について学ぶ)
授業計画 【第15回】	専攻演習Ⅱのまとめと今後 (ランドスケープ・プランについての全体像を把握する)
授業の到達目標	1. 造園学における造園計画の知識と技術の基礎的内容を修得することを目的とする。 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	1. 授業で配布する学術論文や造園作品資料等を授業前に精読すること。 2. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備すること。 3. 予習は1時間程度行うこと。
授業時間外の学習 【復習】	1. 授業後にさらに理解を深めるために学術論文や造園作品資料等を再度精読すること。 2. 復習は1時間程度行うこと。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説する。
評価方法・基準	1. 研究課題に関するレポート(100点) 2. 授業への取り組みも評価(授業態度によってはマイナス評価も行う)
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布する。
参考書	1. (公社)日本造園学会: ランドスケープ研究(学会誌) 2. (公社)日本造園学会: ランドスケープ研究作品集(学会誌)
備考	造園計画研究室(関西研)における研究領域の概要は以下の通りである。まずは、SDGs(持続可能な開発目標)を基本に、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりを進める「グリーンインフラ」の視点に立ち、地域活性化や持続可能な都市経営を考えたランドスケープについて研究している。例えば、地域の課題解決型をテーマに、実際にフィールドワークによって現状の課題について調査分析を実施し、地域の方との協働で考察を行い、新たな社会资本やその体制をランドスケープの社会実装を推進。また伝統的な日本庭園の研究を推進して、文化財庭園の修復や継承から持続可能な維持管理による文化財保護、その庭園の歴史的背景に関する史的研究などを行い、世界に発信する日本文化の深化を図っている。そして、その知識と専門技術を用いて、次世代型の日本庭園の構築を研究している。 ①近代ランドスケーププラン&デザインに関する実践研究とその活用(グリーンインフラ社会実装・造園計画) ②都市緑地環境の形成に関する調査研究とその活用(都市緑地形成・都市経営・まちづくり) ③日本庭園の成立背景に関する歴史原論研究とその活用(日本庭園史・庭園計画・歴史まちづくり)

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	地域と景観 文献講読
授業計画 【第13回】	地域の景観評価 現況調査
授業計画 【第14回】	地域の景観評価 写真比較
授業計画 【第15回】	地域と景観の今後 まとめ
授業の到達目標	1) 地域景観について体系的に学び、地域とはどんなものか、景観が地域の中でどのように役割を果たしているかを知る。【専門分野のスキル】 2) 地域景観の調査や計画にかかる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】 3) 演習を通じて、現状の認識力や表現力、グループ作業による協調性ならびにプレゼンテーション能力など、技術者として不可欠な素养を高める。【プレゼンテーション力】【実践力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な地域論や景観論、造園学に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの地域や景観についての知見を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な地域社会や自然地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて考察を深めておく。ゼミ報告担当の場合は発表資料等を準備する。(約1.5時間)
授業時間外の学習 【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など基礎的な地域論や景観論、造園学に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は見直しておく。(約0.5時間)
課題に対する フィードバック	各授業時間内に課題や発表に対してお互いに質疑応答を活発に行う。必要に応じてコメントを示す。
評価方法・基準	毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
テキスト	授業中において配布する資料及び紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイドンス）において紹介する。主なもの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006 など ③後藤春彦：景観づくり論、学芸出版社、2007
備考	演習の実施形態についてはガイドンス時に説明する。

各自の卒業研究の内容、進捗状況を毎回報告し、その内容や研究方法について議論を行う。
庭園の現地調査やアンケート調査を行い、分析する。

- 1 研究テーマの検討
研究テーマを決めます。既往論文との関係や研究の意義役割について考察する。
研究の背景と目的の設定方法、書き方について学ぶ。

- 2 研究方法の検討①
1で学んだ内容から研究の目的と背景を文章化する。
既往研究からの引用や結果を仮定するなどして研究方法を決める。

- 3 研究方法の検討②
2で学んだ内容から研究の妥当性を確認し、研究のフローチャートを作成する。

- 4 文献調査①
研究テーマに沿った文献調査の方法を学び、実際に文献調査を行う。

- 5 文献調査②
各自が行った文献調査について発表する。

- 6 分析方法①
データの収集方法や分析方法について学ぶ。

- 7 アンケート調査の手法
アンケート票の作成方法、質問文、依頼文の書き方、個人情報保護法などについて学ぶ。

- 8 アンケート調査の手法
アンケートの分析方法について学ぶ。単純集計、クロス集計などエクセルを用いて実際に行う。

- 9 その他の調査の手法
現地調査、ヒアリング調査、エスノグラフィー調査など、その他の調査方法の手順や作成方法などを学ぶ。

- 10 研究指導①
結果の仮説をたて、研究の背景と目的を記述する。その内容について妥当性を議論する。

- 11 研究指導②
概要を記述する。研究方法など、様式に合わせた作成を行い、パワーポイントを作成して発表の練習を行う。

- 12 庭園調査①
研究対象地に出向いて現地調査を行う。現地での調査方法を学ぶ。

- 13 庭園調査②
12に引き続き、研究対象地に出向いて現地調査を行う。現地での調査方法を学ぶ。

- 14 研究指導③
再度、概要を記述する。研究方法など、様式に合わせた作成を行い、パワーポイントを作成して発表の練習を行う。

- 15 総括
各自の研究のふりかえり、卒論の進め方の再検討などを行う

自らが取り組む卒論テーマに関連した研究論文を読解し、論理的思考での記述、要点をまとめる力、明確に話す力を養います。プレゼンテーション能力を高める。

【専門分野のスキル】 【課題発見・分析・解決力】 【プレゼンテーション力】

1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)

卒論テーマに関する資料検索、予備調査などを行う。（週に8時間以上）
研究テーマに沿って各自で文献調査や現地調査を行う場合もある。

卒論テーマに関する資料検索、予備調査などを行う。（週に8時間以上）
研究テーマに沿って各自で文献調査や現地調査を行う場合もある。

毎回実施内容について講義中にコメントする。
提出物に評価点、改善内容や指摘内容を記載する。

毎回の演習に対する進捗度、理解度を評価する。
各回の発表について、論文テーマ選定の適否、理解度、発表時間、ポイントの把握、今後の展望及び質問への応答の的確さを評価する。（全体で100%）

なし

ランドスケープ研究（日本造園学会）など

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	データ分析2：作表
授業計画 【第13回】	中間検討1：結果とデータ分析
授業計画 【第14回】	中間検討2：考察・引用分析
授業計画 【第15回】	結果のまとめ（中間報告）
授業の到達目標	演習を通じて、緻密な研究計画を立てることにより、スムーズな卒業研究への移行を目標とする。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学習 【予習】	卒業研究のテーマに関する文献等を収集し、その内容を理解する。（週30分程度）
授業時間外の学習 【復習】	調査データの速やかな整理、図表作成を行う。（週30分程度）
課題に対する フィードバック	提出課題を評価後、返却し解説を行う。
評価方法・基準	調査研究進捗報告100点
テキスト	
参考書	研究関連文献
備考	

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ				授業形態	演習	
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	
担当教員名	岡島 直方						
授業概要		専攻演習Ⅰで習得した力を基に、卒業論文の準備を行い、自らの卒業論文を作成する力を養う。また、論文に書かれた内容をまとめて発表する力を高め、プレゼンテーション能力を養う。卒論テーマに即した内容の論文を通して研究手法、解析などの理解を深める。					
関連する科目		「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」、「専攻演習Ⅱ」、「専攻演習Ⅲ」、「卒業論文」が一連の授業体系を構成している。					
授業の方法と進め方		教室で座学的に実施する演習、樹林地やフィールドなどで演習や実習。 以下に示す計画は目安であり、年度ごとのメンバーの興味や資質もあるので、下記の内容と同じとは限らない。					
授業計画 【第1回】		研究論文探索 興味のある研究を探す練習を行います。					
授業計画 【第2回】		研究計画検討1： 研究室で取り組む対象地域を決定します。					
授業計画 【第3回】		研究計画検討2： 対象地域の調査を行います。					
授業計画 【第4回】		論文読解1 研究対象地域に関する研究として文献を読みます。					
授業計画 【第5回】		論文読解2： 研究対象地域の自然立地的・土地利用に関する研究について文献を学習します。					
授業計画 【第6回】		論文読解3： 造園学原論・造園史に関する研究を行います。					
授業計画 【第7回】		論文読解4： 緑地機能に関する研究を行います。					
授業計画 【第8回】		論文読解5： ランドスケープ・エコロジーに関する研究について学習します。					
授業計画 【第9回】		論文読解6： ランドスケープ解析に関する研究について学習します。					
授業計画 【第10回】		論文読解7： 最新情報への更新を行います。					
授業計画 【第11回】		データ分析1： 作図をします。					

授業計画 【第12回】	データ分析2： 作表をします。
授業計画 【第13回】	第一次中間検討1： 結果とデータ分析を行います。
授業計画 【第14回】	第一次中間検討2： 考察・引用分析を行います。
授業計画 【第15回】	結果のまとめ 半年間のまとめと最終課題を提出します。
授業の到達目標	1. 自らが取り組む卒論テーマに関連した研究論文を読解し、論文から事実を把握する力、要点をまとめる力を身につける。 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【実践力】 2. 明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高める。 【プレゼンテーション力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	事前に提示するプリントに目を通す。(30分程度)
授業時間外の学習 【復習】	当日の内容の振り返りをし記録をとる。(30分程度) 課題を行う。
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行う。
評価方法・基準	参加態度(70点) レポート(30点)
テキスト	「庭のデザインと設計」、星進、池田書店、1975 「雑木林が創り出した景色」、岡島直方、2005
参考書	「眼を養い手を練れ」、宮脇塾講師室編著、彰国社、2003 「旅でスケッチしませんか」、永沢まこと、講談社、1998
備考	卒業論文、卒業施工・設計の報告書などを書く時に必要となるまとめ方の基礎を取り扱う。

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	第12回 研究の進捗の発表（2） 受講生1～2名が、研究の進捗を発表します。
授業計画 【第13回】	第13回 研究の進捗の発表（3） 受講生1～2名が、研究の進捗を発表します。
授業計画 【第14回】	第14回 研究の進捗の発表（4） 受講生1～2名が、研究の進捗を発表します。
授業計画 【第15回】	第15回 研究の進捗の発表（5） 受講生1～2名が、研究の進捗を発表します。
授業の到達目標	1. 自分の研究の内容を正確に発表する方法を身につける。【汎用的技能の育成】 2. 研究について議論することで批判的思考力を養う。【汎用的技能の育成、態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-5)
授業時間外の学習 【予習】	発表に使用する資料を作成します。
授業時間外の学習 【復習】	発表時の指摘を踏まえて研究計画や発表内容を推敲します。また毎週、各自で関心のある論文を1本以上読み、レポートを作成します。
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的に助言や指導を行います。
評価方法・基準	受講態度（50%）とレポート（50%）で評価します。受講態度は、授業中の積極性で決めます。また、全ての受講生が3回以上発表する必要があります。
テキスト	なし
参考書	なし
備考	なし

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第13回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第14回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業計画 【第15回】	3。食料農産物貿易に関するテーマー続きー
授業の到達目標	食料・農業、食料農産物貿易を理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学習 【予習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
授業時間外の学習 【復習】	農林水産省 http://www.maff.go.jp/index.html 、日本貿易振興機構（ジェトロ） https://www.jetro.go.jp/ 、農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/ 、FAO（国連食糧農業機構） http://www.fao.org/home/en/ などを検索し、知識化する。
課題に対する フィードバック	教員も議論に参加する。
評価方法・基準	発表(50%)や討論(50%)で評価する。
テキスト	農業および経済関連政府機関、研究機関のホームページ。WTOおよびFAOのホームページ。
参考書	無い

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	受講者各自による発表 (1回につき2~3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第13回】	受講者各自による発表 (1回につき2~3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第14回】	受講者各自による発表 (1回につき2~3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業計画 【第15回】	受講者各自による発表 (1回につき2~3名程度が担当する) プレゼンテーションの方法を学ぶ。
授業の到達目標	人前でプレゼンテーションを行うにあたっての基本方法を会得する【汎用的能力の育成】【志向性の育成】。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学習 【予習】	人に理解してもらえるプレゼンテーションは何かについて各自で勉強すること(約1時間)。
授業時間外の学習 【復習】	プレゼンテーション時に指摘された事項について検討し、次回に備えること(約1時間)。
課題に対する フィードバック	各プレゼンに対して講評する。
評価方法・基準	プレゼンテーションの内容(50点)、質疑に対する対応力(50点)
テキスト	毎回、発表者が準備すること。
参考書	論理的にプレゼンする技術、「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション15のルール

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	第12回 論文紹介および発表11 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第13回】	第13回 論文紹介および発表12 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第14回】	第14回 論文紹介および発表13 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業計画 【第15回】	第15回 論文紹介および発表14 学術論文を紹介するとともに、専攻生が論文の内容を発表する。
授業の到達目標	学術論文（英文）を読解し、要点をまとめて発表できるようになることを目標とする。【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	次回輪読する論文を読み、知識を深めておくこと。（約1時間）。
授業時間外の学習 【復習】	授業で輪読した論文に関する参考文献を調べ、より理解を深めて下さい。（約1時間）
課題に対する フィードバック	毎回、発表についての指導を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1)受講態度-50点 2)発表内容-50点
テキスト	特になし（毎回、資料を配布する）
参考書	特になし

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	12. 芝草類に発生する病害 芝生類に発生する病害について病原体・病徵・発生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第13回】	13. 庭木に発生する病害 庭木に発生する病害について病原体・病徵・発生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第14回】	14. 樹木に発生する病害 樹木に発生する病害について病原体・病徵・発生態・防除法についてまとめて発表する。
授業計画 【第15回】	15. まとめ これまでの講義を総括する。
授業の到達目標	・園芸植物に発生する病害、病気の原因、病原体の種類、植物における症状、病気の発生態および防除法を理解する。 ・わかりやすいプレゼンテーション能力を習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習 【予習】	発表の配布資料・プレゼン内容を事前に教員と共に図表の説明、まとめ方、理解できない点などについて確認・修正すること(45分)。
授業時間外の学習 【復習】	発表後は答えられなかった質問について調べ次回答する(1時間)。
課題に対する フィードバック	発表に対する質問に答えられない場合は宿題として学習してもらい、次回に発表してもらうことにより理解度を深める。プレゼンについての意見交換により、プレゼン能力の向上を図る。
評価方法・基準	各植物に発生する病害の理解度・発表能力・受講態度・プレゼン内容により総合的に評価する。(100点)
テキスト	必要に応じて作製した資料を配布する。
参考書	日本植物病理学会報(日本植物病理学会) 作物病害事典(全国農村教育協会)岸国平編(1999)

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称	専攻演習Ⅱ				授業形態		演習
科目コード	710094	単位数	2単位	配当学年	4	実務経験教員	アクティブラーニング
担当教員名	山口 健一						ICT活用

授業概要	環境保全型農業論、環境保全園芸論等の講義や関連する実習・実験等の授業で習得した知識を基に、環境保全園芸学に関する研究の実例を学術論文・書籍等（英文）を教材として議論し、海外における専門分野の背景や手法、現状について理解することを目的とする。
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅲ、卒業論文
授業の方法と進め方	事前に提示した課題について自ら学び、ゼミ形式でプレゼンテーションを実施する。本授業では、受講生と担当教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習として行う。
授業計画 【第1回】	O 1. 授業の進め方 受講生各自の課題を決め、プレゼンテーション方法について説明する。
授業計画 【第2回】	O 2. プrezentationの実例 教員あるいは上級生によるゼミ発表と質疑応答
授業計画 【第3回】	O 3. 課題に対するプレゼンテーション 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第4回】	O 4. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第5回】	O 5. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第6回】	O 6. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第7回】	O 7. 課題に対するプレゼンテーション（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第8回】	O 8. まとめⅠ（総括） 前半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。
授業計画 【第9回】	O 9. 課題に対するプレゼンテーションⅡ 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第10回】	O 10. 課題に対するプレゼンテーションⅢ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第11回】	O 11. 課題に対するプレゼンテーションⅣ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。

授業計画 【第12回】	1.2. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第13回】	1.3. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第14回】	1.4. 課題に対するプレゼンテーションⅡ（受講生順次） 課題ごとに発表スキルを学び、質疑応答の方法を身につける。
授業計画 【第15回】	1.5. まとめⅡ（総括） 後半の研究課題について受講生全員が理解し、共通認識する。
授業の到達目標	科学論文（英文）について、読解力および要点を纏めて発表、質疑に応答する力を身につける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-3)
授業時間外の学習 【予習】	次回の課題を予めアナウンスするので、各自で予習を行う。（30分程度）
授業時間外の学習 【復習】	授業で用いた科学論文について受講生各自で毎回復習する。（1時間程度）？ なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して自ら学びを深める。
課題に対する フィードバック	プレゼンテーションや質問について、優れている箇所や改善が必要な点などを理由を付して都度講評する。
評価方法・基準	各課題テーマに対して理解度および発表力（50点）を、その他については質問の的確さおよび受講態度等（50点）を総合的に評価する。
テキスト	受講生各自の課題に関する論文を第1回授業で発表、配布する。
参考書	各回の課題に関する書籍・論文等を適宜紹介する。

授業計画 【第12回】	第12回 発表
授業計画 【第13回】	第13回 発表
授業計画 【第14回】	第14回 発表
授業計画 【第15回】	第15回 発表
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に動物の生理や生態、害虫防除法、環境問題に関する知識を深めること。 ・プレゼンテーション能力を身につけること。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(3)
授業時間外の学習 【予習】	文献について説明できるように勉強し、スライドや資料を作成する。
授業時間外の学習 【復習】	文献について説明できるように勉強し、スライドや資料を作成する。
課題に対する フィードバック	理解や説明が不十分だった点について補足を行ったり、プレゼンテーション技術について講評を行ったりする。
評価方法・基準	プレゼンテーションに対する努力度や習熟度
テキスト	なし
参考書	なし

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	第11～12回 中間発表：（各自選んでテーマに関して、初步的な予備実験などについてまとめたデータを紹介する。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第13回】	第13～14回 卒業論文の作成：（各自選んでテーマに関して、初步的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成してみる。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第14回】	第13～14回 卒業論文の作成：（各自選んでテーマに関して、初步的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成してみる。毎回1～2名で行う）
授業計画 【第15回】	第15回 卒業論文発表：（各自選んでテーマに関して、初步的な予備実験などについて、卒業論文の書き方を習って作成したものを発表してみる）
授業の到達目標	基本的に履修者本人が指導教員の指導のもと、研究の立案から最終的に卒業論文を取りまとめる能够性を目標としている。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学習 【予習】	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習すること。事前の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
授業時間外の学習 【復習】	また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決する。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにする。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧める。事後の勉強する時間は30分くらいあればと考える。
課題に対する フィードバック	それぞれの研究テーマの発表を毎回1～2人に発表させ、聞いた人は発表内容について、質問したり、アドバイスをしたりする。レポートは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	卒業論文の新規性(20%)、内容(20%)、まとめ方(20%)、完成度(20%)、発表(20%)などを総合的に評価する。
テキスト	特になし。
参考書	随時、指示または指定する。

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	調査実施 各自で設定した研究テーマ・方法に沿って調査を行う。
授業計画 【第13回】	調査解析 実施した調査データ等の解析を行う。
授業計画 【第14回】	各自の課題の調査報告 作成したレポートを報告し、追加調査等の新たな課題を設定する。
授業計画 【第15回】	追加調査等の準備 新たに設定した課題に関する追加調査等の準備を行う。
授業の到達目標	1. 環境園芸学における社会園芸の知識と技術及び価値の応用的内容を修得する。【教養・専門分野の知識・理解】 【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】 【自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】 【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】 2. 口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や集団討論を通じてディスカッション能力も含む総合的なコミュニケーション能力を向上させる。【教養・専門分野の知識・理解】 【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】 【自己管理力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】 【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学習 【予習】	授業で配布するテキストならびに参考図書・論文等の資料を授業前に精読し準備する。
授業時間外の学習 【復習】	授業後にさらに理解を深めるために授業で配布したテキストならびに参考図書・論文等の資料を再度精読する。
課題に対する フィードバック	レポートは評価後、返却ならびに解説を行う。
評価方法・基準	発表・研究した内容に関するレポート（100%）、但し欠席・遅刻・早退及び私語等の悪い授業態度は注意の上、減点とする。
テキスト	専攻演習時に別途資料を配布し、それに基づき実施する。
参考書	学習技術研究会編著 知へのステップ第4版 くろしお出版 2018 高木隆司著 理科系の論文作法 丸善 1997 その他の文献は授業中に紹介する。
備考	この授業は第1回目開始前に受講生同士で話し合って、実施曜日・時限を決めて行う。また、一部の授業は事前に連絡の上、別途日時を設けて実施する場合がある。 先方との都合次第により外部講師との意見交換や実践現場視察・活動体験等を行う場合がある。

Minami Kyushu University Syllabus

授業計画 【第12回】	第12回 データ解析 2：作表方法について学習する。
授業計画 【第13回】	第13回 第一次中間検討 1：結果とデータ解析手法について学習する。
授業計画 【第14回】	第14回 第一次中間検討 2：考察・引用文献の記述法について学習する。
授業計画 【第15回】	第15回 総合討論：現在までのデータに基づく総合討論を行う。
授業の到達目標	自らが取り組む卒論テーマに関連した園芸植物の育種に関する科学論文について、論文から事実を把握する力、要点をまとめる力、明確に話す力を養い、プレゼンテーション能力を高めます。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外の学習 【予習】	授業前：卒論テーマに関連する学会誌に掲載された研究論文を読み込んでください（毎回1-2時間程度）
授業時間外の学習 【復習】	授業後：卒論の引用文献として蓄積してください（毎回0.5時間程度）
課題に対する フィードバック	受講者に対して授業中に質問を行い、受講者自身の理解度の確認を行うとともに、内容について説明を行います。また、その結果に基づき、授業内容の確認を行います。
評価方法・基準	各回の発表について、論文テーマ選定の適否、理解度、発表時間、ポイントの把握、今後の展望及び質問への応答の的確さを評価します。
テキスト	育種学会誌 (Breeding Science, 育種学研究) 園芸学会誌 (The Horticulture Journal, 園芸学研究) 他
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)